

一千年続く「屋形船」の 文化を未来へ繋ぐ

むろだて
室館

いさお
勲

(株式会社 潮流社)
代表取締役社長

2023年7月17日（海の日）。私が会長を務める「若者に伝統文化を伝える会」主催で屋形船の乗船イベントを開催。当日は予想をはるかに上回る約700名の若者が集まり、合計11艘の屋形船を貸し切りました。天候にも恵まれ快晴の中で充実した会となりました。

私たちが開催する屋形船イベントの特徴は、20代から30代の若者のほとんどが浴衣で参加していることです。男女ともに、さまざまな文様の浴衣で参加するため、一堂に会するととても華やかです。国内最大規模を誇っており、テレビ取材を受けたいこともあります。

屋形船の起源は、1000年以上前の平安時代にまで遡ります。「舟遊び」として平安貴族が船の上で景色を楽しんだり、和歌を詠んだり楽器を演奏したりしていたそうです。舟遊びが最も盛んだったのは江戸時代で、豪商や有力大名が自分の船に乗って遊ぶ姿を見せつけるために外観や内装がどんどん豪華になっていきました。この頃から、お食事やお酒を楽しむ現代のスタイルの原型ができました。日本が世界に誇る浮世絵にも屋形船のシーンは多く残っています。

1000年以上続く伝統の遊びをいまだに楽しめるのは、世界でも稀です。江戸時代は身分制度があり、庶民には手が届かなかった屋形船ですが、現代のように誰でも乗船できるようになったことはとても良いことだと思います。

現代の屋形船は、2、3時間の乗船で価格は1万円を超えるものがほとんどです。お酒を飲みながら、お刺身やてんぷらをいただき、仲間と交流をして楽しい時間を過ごします。素晴らしい経験ではあるものの、価格帯は若者が少し敬遠してしまう可能性もあり、企画当初は興味を持っていただけるか若干不安もありました。しかし、いざ開催してみると初めて屋形船に乗った若者の多くに、大変満足していただきました。そして人が人を呼び、2019年には1000名を超える若者が、参加をしてくれました。屋根に登って船上からの景色を楽しんだり、スカイツリーやレインボーブリッジをバックに記念撮影をしたりと、とても盛り上がりがありました。

普段の生活では触れる機会の少ない浴衣を着ることも良い経験になっているようです。初めて参加する方は浴衣をレンタルする方が多いですが、屋形船のイベントをきっかけに自分の浴衣を購入する方も増えていきます。乗船後、浴衣のまま仲間たちと二次会に行くと、観光に来ている外国人に声をかけられ写真撮影を求められることもあるようです。「日本人としての誇りを感じる事ができた」という喜びの声も多く届いています。浴衣を着ることで日本人としての自覚を深めるきっかけにもなるので、若者にはぜひ一度浴衣を着て屋形船に乗船していただきたいと思っています。

さて、多くの若者に伝統文化の価値を伝えたいと思っていた矢先の2020年、コロナ禍によって日本中が自粛ムードに包まれました。飲み会を控え、飲食店が悲鳴をあげているというニュースが流れていました。屋形船も同様に大きなダメージを受けました。聞いたお話によると、売上が前年比90%マイナスだったとのことで、このままでは屋形船の伝統自体が途絶えてしまう危機にあったのです。

この頃の新型コロナウイルスは未知のウイルスで状況も全くつかめなかったため、屋形船イベントは中止を余儀なくされました。2021年は、例年よりも人数を縮小して開催する予定でいました。ただ、開催を直前に控えた7月12日に緊急事態宣

言が発令されたため、2年連続中止も脳裏をよぎりました。それでも、このまま屋形船の文化を消滅させるわけにはいかないと思い、屋形船東京都協同組合のご協力のもと十分に対策をした上で開催を決断しました。開催当日、長年お世話になっていく浅草橋の屋形船運営会社の代表の方からは、目に涙を浮かべながら「このコロナ禍に、たくさんの方にお越しいただき誠にありがとうございました」と深々とお辞儀をされお礼の言葉をいただきました。その時に、本当にご苦労されてこられたことが伝わり、目頭が熱くなりました。同時にこれからも浴衣を着て屋形船を楽しむイベントを開催して、若者に日本の伝統文化の素晴らしさを伝え続けたいと強く思いました。多くの方のご尽力で、2022年からはこれまでのように多くの若者に乗船していただくことが叶い、今年も700名の若者に参加していただくことができました。

世間が思っている以上に若者の伝統文化に対する反応は良く、価値も十分に理解しているように感じます。若者の遊びはこれからも多様化していくと思いますが、屋形船のような伝統的な遊びも十分魅力を感じてくれる感性が若者にはあります。これからも1000年以上続く伝統文化「屋形船」を若者に広めていきたいと思えます。

